

水源地をきれいにするキャンペーン 及びエコクラブ探検隊



清掃終了後、釜房ダム管理事務所の前で

10月14日（土）に『水源地をきれいにするキャンペーン』及び環境問題研究教室『エコクラブ探検隊』を総勢44名参加のもと実施した。

キャンペーンは、仙台市の水瓶といわれる釜房ダム周辺を約1時間程行ったが、特に空き缶が多く見受けられ、車からのポイ捨て等、マナーの悪さを痛感させられた。

また、プラスチック製の洗剤の容器や灯油用の手動ポンプ等、故意に捨てられた様なものから割れたガラス瓶といった怪我の原因となるようなものまで捨てられており、ダム管理事務所の方の話では、周辺には粗大ゴミが不法投棄され、冷蔵庫や古タイヤ等が捨てられていることもあるということである。

清掃は約1時間程であったが、ゴミ袋に空き缶類が6袋、ペットボトルを中心としたプラスチック容器類が4袋、ガラス類が2袋、その他のゴミが4袋にもなり、改めてゴミの多さに驚かされたが、ダム管理事務所の方や毎年水源地をきれいにするキャンペーンに参加している会員によると、年々ごみの量は減っているそうであり、清掃を継続することで徐々にで

宮城県管工業協同組合青年部連絡協議会

担当役員 会長 井上 環 実行委員長 大泉雄介

実施日 平成18年10月14日(土)

参加者 総勢 44名

(内訳 大人 26名 子供 18名)

はあるが、キャンペーンの成果があらわれているのではないのでしょうか。

その後、環境問題研究教室『エコクラブ探検隊』としてガラクタオブジェ館の見学に向かった。ガラクタオブジェ館は、使用済みのカメラのフィルムや、その他不要となったガラクタを使用して作られたロボットや飛行機等が展示されており、特に子供たちは興味深く熱心に見学していた。

今回の釜房ダム清掃とガラクタオブジェ館の見学によって、特に子供たちが自然に対する意識や、水の大切さについて考えてくれる時間が持てたということは非常に大切であり、今後も継続していきながら、次世代を担う子供たちに自然の大切さについて伝えていければと思った。



清掃状況



釜房ダム風景

